

郷土三浦に誇りをもち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成

三浦市教育委員会

三崎小学校

テーマ

『三崎とつながり
世界とつながる』
～言葉を介して他者と「関わり合う力」の育成～

岬陽小学校

テーマ

自分らしくいきいきと
表現する子
～伝えたくなる場・
かかわりづくり～



三崎中学校

テーマ

自ら学ぶ生徒を育む

南下浦中学校

テーマ

教師の個別最適な学び
としての探究的な研究

初声中学校

テーマ

主体的に学ぶ子
～主体的な学びへ
つながる授業づくりを
目指して～

名向小学校

テーマ

生き生きと学ぶ子
～見取りを生かして
育む資質・能力～

南下浦小学校

テーマ

自ら学ぶ子
～もっと知りたい・
やりたい・学びたい～

上宮田小学校

テーマ

自他のよさに気づき、考
え、行動できる子
～道徳の授業を軸とした自
己肯定感を高める指導の工
夫を通して～

旭小学校

テーマ

すすんでかかわり、
高め合う子
～子どもたちが夢中にな
る単元づくりを通して～

剣崎小学校

テーマ

「子どもの豊かな学力を
育む学びを目指して」
～学びのプランを活用した授業づ
くりと「えななみタイム」の実践、
交流学習を通して、主体的に学習
に取り組む子を育てる～

初声小学校

テーマ

「自分の想いをもち、
伝え合う子の育成」

チーム三浦の実践

◆総合(5年) 三浦市立旭小学校

三浦の大根の出荷量減少という課題解決のために、今まで学習したことをふまえて、これからの学習について話し合おう。

- T: これからの学習について考えるよ。それぞれ、どんなことを考えているのかな？
C: 大根の出荷量が減るのを止めたい。そのためにできることをもっとつきつめたい。
C: 大根はある程度やり切れたから、マグロで三浦をもっと栄えさせたい。
C: マグロもいいけど、まだ大根をやり切れていない。
C: 両方ともやったらどうかかな？
C: 両方いっぱいには考えていきにくいよ。

ポイント

子どもたち一人ひとりが、課題解決のためにとても強い思いをもって学習に取り組んでいました。
本気だからこそ、自分の思いも語りたいし、仲間の思いも真剣に聞いて考えることができます。
正に主体的な授業であり、教師は教えるのではなく、話し合いが円滑に進むよう支援する、ファシリテーターとなっていました。

◆生活(1年) 三浦市立初声小学校

「にこにこ大さくせん」を考えよう。

- T: 「にこにこ大さくせん」を少しやってみて、どんな「にこにこ」があったかな？グループで話し合ってみよう。
C: お手伝いをしたら、おうちの人がにこにこになったよ。
C: おすしをいっぱい食べたら、おうちの人がにこにこになったよ。
C: 行儀よく食べたり、野菜を残さずに食べたりしたら、にこにこになったよ。
T: みんなの「にこにこ大さくせん」を聞いて、もっとアイデアが広がったね。もっとにこにこを増やすにはどうしたらいいか考えてみよう。ワークシートに書こう。

ポイント

とても温かな雰囲気の中、「にこにこ大さくせん」を、にこにこしながら考えることができていました。
基本的なことではありますが、思ったこと・考えたことを安心して発言できる学級風土は主体的・対話的で深い学びを実現させるための大事な基盤です。
また、思考場面が、一人、ペア、グループ、全体とテンポよく設定されていたことも、子どもたちの集中力を持続させる大事なポイントです。

◆数学(3年) 三浦市立三崎中学校

相似の考え方を活用できるようになろう。
「一元玉と教室内の時計の相似比を求めなさい。ただし、定規で長さを測らないで、相似比を求めていきます。」

- C: 実際に測らないとわからないよ。
C: 一元玉を時計と重なるようにかざしてみたらどうか。
C: 床に置くの？
C: 腕を伸ばして、手の先で持つようにしてみたらどうだろう。
C: 一元玉と黒板までの距離を考えてみよう。
C: 身体と黒板までの距離を測るのはどうだろう？
T: では、隣の教室に行き、その方法を試してみよう。

ポイント

これまでに学習した相似の考え方を利用し、生徒は主体的に試行錯誤します。課題解決のために生徒同士で考え方を説明し合いながら、学びを深めていきます。
手の届かない場所にある時計だからこそ、何か工夫しなければ課題を解決できません。これまで学習した知識・技能が必要となる状況下をつくり、数学的な活動を通して、学びを深めていきました。適切な課題設定と教師が意図的に教えないことで成り立つ授業実践でした。